

内堀朝子 (東京大学)

上田由紀子 (山口大学)

uchibori@cce.t.u-tokyo.ac.jpykueda@yamaguchi-u.ac.jp

要旨

日本手話 (以下 JSL) には各種方言があるが、本研究は JSL 愛媛方言のネイティブサイナーによるデータに基づく。本研究では、JSL 愛媛方言における VP 様態副詞、目的語、動詞の語順に関する制約を指摘した上田・内堀(2019) (以下、U&U) の観察の不十分な点として、CL 動詞と VP 様態副詞を含む例文ではロールシフト(role shift)/レファレンシャルシフト(referencial shift)(以下、RS)の生起が必要であることを指摘し、改めて RS 領域における VP 様態副詞の非手指(NM)形態素の波及を観察した。これにより、行動 RS (小園江・木村・芳仲・市田 2000, 市田 2005a, 岡・赤堀 2011, 松岡 2015, 内堀 2018, 川崎 2021) が生じる領域とそうでない RS (以下、非行動 RS と呼ぶ) の領域では、行動 RS の生起する領域でのみ、VP 様態副詞 NM 形態素が目的語を超えて動詞に波及できないという線状的隣接性条件が適用されることを確認した。

1. はじめに: JSL の VP 様態副詞と RS

(1) VP 様態副詞 ($\overline{\text{CAREFULLY}}$ ¹ ‘丁寧に’, $\overline{\text{QUICKLY}}$ ‘速く’など) は手指形態素 (任意に省略可) と NM 形態素 (省略不可) からなり、NM 形態素は動詞に波及 (spreading) できる(4)。

(2) U&U の観察と主張: JSL における VP 様態副詞の外在化について、VP 様態副詞の NM 形態素が動詞に波及する際、線状的隣接性条件が必要(5a,b)。

(3) U&U の問題点: U&U は VP 様態副詞で修飾される行為を RS を伴わない CL 動詞が表わせるとして記述したが、その後の調査において、その種の文で RS を表出しないことは基本的に不自然であるという JSL ネイティブサイナーからの指摘があった(4)。

(4) $\overline{\text{YESTERDAY SATO CAR CAREFULLY/QUICKLY WASH PT}_{\text{SATO}}}$ ² C-RS
 $\overline{\text{TOP TOP}} \overline{\text{CAREFULLY/QUICKLY}} \overline{\text{C-RS}}$

‘昨日、佐藤が車を(丁寧に/速く)洗った’ (以下、日本語訳では日本手話文で RS が適用される範囲を で示し、翻訳上の意味は反映させていない)

(5) 「VP 様態副詞の NM 形態素の動詞への波及は、手指形態素と動詞が線状的に隣接していなければならない」(上田・内堀 2021:29) (5ab)。手指形態素が省略されると、NM 形態素は動詞に義務的に波及(5c)。

a. $\overline{\text{TOP CAREFULLY CAREFULLY}} \overline{\text{C-RS CAREFULLY}}$
 *SATO CAREFULLY CAR WASH PT_{SATO} ‘佐藤は丁寧に車を洗った’

b. $\overline{\text{TOP CAREFULLY CAREFULLY}}$ C-RS
 *SATO CAREFULLY CAR WASH PT_{SATO}

c. $\overline{\text{TOP CAREFULLY}}$ C-RS
 SATO CAR WASH PT_{SATO}

(6) 【文脈】佐藤はタクシー会社で働いているタクシードライバー。この会社では、ドライバーが自分の

* 本研究にご協力いただいた日本手話ネイティブサイナーの方に、深く感謝申し上げます。本研究は JSPS 科研費 JP21K00499(研究代表者: 内堀朝子)及び JSPS 科研費 JP21K00528 (研究代表者: 上田由紀子) の助成を受けた。

¹ 以下の例文において、上付き線は NM が出現する範囲を表わす。Q-RS は引用 RS (quotative RS), C-RS は行動 RS (constructed action), 3rd-RS は第3の RS, TOP は話題化標識の NM すなわち眉上げ・見開き・話題化要素後の頷き及び短い間を、NEG は否定辞の NM すなわち首振りを表わす。

² この文の RS は行動 RS (2節参照) だが、RS の標示が VP 様態副詞から始まるか動詞から始まるかは任意である。

車を清掃することになっている。今日、会社の車両整備の係員が、佐藤について社長に報告した。

- (7) U&U では $\overline{\text{CAREFULLY}}$ ‘丁寧に’ を意味解釈から VP 様態副詞としたが、以下に示す語順はそれを支持する。
- a. 文頭の話題句の左には出てこない(8)。
 b. 時の副詞 *YESTERDAY* ‘昨日’の右には出てくるが、左には出られない(9ab)。なお、*YESTERDAY* ‘昨日’は目的語の右には出てこない(10)。

(8) $\overline{\text{CAREFULLY}}$ $\overline{\text{SATO}}$ $\overline{\text{YESTERDAY}}$ $\overline{\text{LUNCH}}$ $\overline{\text{MAKE}}$ $\overline{\text{PT}_{\text{SATO}}}$
 ‘昨日、佐藤が弁当を丁寧に作った’

(9) a. $\overline{\text{SATO}}$ $\overline{\text{YESTERDAY}}$ $\overline{\text{CAREFULLY}}$ $\overline{\text{LUNCH}}$ $\overline{\text{MAKE}}$ $\overline{\text{PT}_{\text{SATO}}}$

b. $\overline{\text{SATO}}$ $\overline{\text{CAREFULLY}}$ $\overline{\text{YESTERDAY}}$ $\overline{\text{LUNCH}}$ $\overline{\text{MAKE}}$ $\overline{\text{PT}_{\text{SATO}}}$

(10) $\overline{\text{SATO}}$ $\overline{\text{CAREFULLY}}$ $\overline{\text{LUNCH}}$ $\overline{\text{YESTERDAY}}$ $\overline{\text{MAKE}}$ $\overline{\text{PT}_{\text{SATO}}}$

- (11) 本研究では、RS が自然に生起する CL 動詞（ただし RS による人称のシフトの影響を最小限とするため、非一致動詞）を用いた文を主に観察し、VP 様態副詞 NM 形態素の波及可能性を検討する。

2. JSL における RS：行動 RS と非行動 RS

- (12) Role shift (RS) とは「... サイナーが、他者の発言や考え、視点などを表わしている」(Sandler and Lillo-Martin (2006: 379) (訳 上田・内堀)) 手話表現であり、非手指表現として標示される。
- (13) 「... ロールシフト (Role shift) は... 手話の話者が一人で複数の話し手 (人物) の役割を担う表現」(木村 2011: 124)
- (14) サイナーは通常、頭を正面 (対話の相手の方向) に向けて、普通の目の開きから視線を対話の相手に向かわせる。一方、RS の生起範囲では、視線や頭の位置のシフトが生じる。(市田 2005a, 岡・赤堀 2011, 松岡 2015, 川崎 2021)
- (15) 「... 引用型のシフトは節レベルの現象... であるが、行為型のシフトは動詞レベルの現象...」(市田 2005a: 96)

(16) a. 引用 RS

$\overline{\text{YESTERDAY}}$ $\overline{\text{SATO}}$ $\overline{\text{PT}_1}$ $\overline{\text{CAR}}$ $\overline{\text{WASH}}$ $\overline{\text{PT}_{\text{SATO}}}$ $\overline{\text{PT}_1}$ ‘昨日、佐藤は僕が車を洗った’

b. 行動 RS

$\overline{\text{YESTERDAY}}$ $\overline{\text{SATO}}$ $\overline{\text{CAR}}$ $\overline{\text{CAREFULLY}}$ $\overline{\text{WASH}}$ $\overline{\text{PT}_{\text{SATO}}}$ ‘昨日、佐藤は車を丁寧に洗った’

- (17) 引用 RS は、発話事象を表わしており、発話思考動詞自身は語として現われていないが「～と言った」等の意味があり、引用 RS の中には否定辞・アスペクト要素を含むことができる(17a, b) (川崎 2021)。またモダリティ要素も出現可能(17c)であり、引用 RS は (顕在的) 主語を含む節の領域を範囲とし(16a, 17d)、主語の人称は一人称にシフトする(16a, 17b, 17e)。

a. 【文脈】学生 女 いつも [RS 呼ぶ 質問する 反復] (川崎 2021) ‘いつもその女子学生がたくさん質問する’

$\overline{\text{TODAY}}$ $\overline{\text{QUESTION}}$ $\overline{\text{NOT}}$ (川崎 2021 より表記改変) ‘今日質問ありません’

b. $\overline{\text{YESTERDAY}}$ $\overline{\text{PT}_1}$ $\overline{\text{CAR}}$ $\overline{\text{WASH}}$ $\overline{\text{PERFECTIVE}}$ $\overline{\text{PT}_1}$ ‘昨日、私が車を洗い終わった’

c. $\overline{\text{TOMORROW}}$ $\overline{\text{SATO}}$ $\overline{\text{CAR}}$ $\overline{\text{CAREFULLY}}$ $\overline{\text{WASH}}$ $\overline{\text{NEED}}$ $\overline{\text{PT}_{\text{SATO}}}$

‘明日、佐藤は車を丁寧に洗う必要がある’

- d. $\overbrace{\text{YESTERDAY}}^{\text{TOP}} \overbrace{\text{SATO}}^{\text{TOP}} \overbrace{(\text{*PT}_{1/\text{SATO}})}^{\text{Q-RS}} \text{CAR WASH PT}_{\text{SATO}}$ ‘昨日、佐藤は私が/彼が車を洗った’
- e. $\text{*YESTERDAY SATO PT}_{1/\text{SATO}} \text{CAR WASH PT}_{1/\text{SATO}}$ ‘昨日、佐藤が車を洗った’

(18) 行動 RS の範囲には、アスペクト要素・否定辞・モダリティ要素が含まれない (川崎 2021) (18a-c)。

- a. $\overbrace{\text{YESTERDAY}}^{\text{TOP}} \overbrace{\text{SATO}}^{\text{TOP}} \overbrace{\text{CAR CAREFULLY}}^{\text{C-RS}} \overbrace{\text{WASH PERFECTIVE}}^{\text{CAREFULLY}} \text{PT}_{\text{SATO}}$
 *‘昨日、佐藤は車を丁寧に洗い終わった’ (‘昨日、佐藤は車を丁寧に洗った、(報告)終わり’の意味の文は可)
- b. 【文脈】(17a)と同じ

TODAY ‘ $\overbrace{\text{SAY NOTHING}}^{\text{C-RS}}$ ’. TODAY $\overbrace{\text{QUESTION}}^{\text{C-RS}} \overbrace{\text{NEG}}^{\text{NEG}}$ (川崎 2021 より表記改変)
 ‘今日、無言’ ‘今日、質問するない’

- c. $\overbrace{\text{TOMORROW}}^{\text{TOP}} \overbrace{\text{SATO}}^{\text{TOP}} \overbrace{\text{CAR QUICKLY}}^{\text{C-RS}} \overbrace{\text{WASH}}^{\text{QUICKLY}} \text{NEED PT}_{\text{SATO}}$
 ‘明日、佐藤は車を速く洗う必要がある’

(19) 行動 RS は、目的語を含まない。(内堀 2018, イタリア手話の例)

(20) 「行為型の referential shift とは、描写される行為をする当事者の姿勢、頭の動き、視線、表情を演じることである」(市田 2005b: 96)

(21) RS の範囲：

- a. 引用 RS = TP (少なくともアスペクトを含む領域以上)
 b. 行動 RS = vP (少なくともアスペクトを含む領域未満 (詳しくは 3 節を参照))

(22) JSL には、引用 RS でも行動 RS でもない第 3 の RS のパターンが存在する：(i) 行動 RS 同様に、目的語は含まない、(ii) 引用 RS 同様に、動詞に後続するアスペクト要素やモダリティ要素は範囲内に出現可。

- (23) $\overbrace{\text{YESTERDAY}}^{\text{TOP}} \overbrace{\text{SATO}}^{\text{TOP}} \overbrace{\text{CAR QUICKLY}}^{\text{C-RS}} \overbrace{\text{WASH PERFECTIVE}}^{\text{3rd-RS}} \text{PT}_{\text{SATO}}$
 ‘昨日、佐藤は車を速く洗い終わった’

(24) 目的語を含み、動詞に後続するアスペクト要素を含まない RS のパターンは存在しない(25a)。つまり、アスペクト要素を含むことのない RS は、目的語を含まない行動 RS である。一方、目的語とアスペクト要素の両方を含む RS は引用 RS と見なせる(25b)。したがって、第 3 の RS のパターンは行動 RS ・引用 RS とは区別する必要がある³。

- (25) a. $\overbrace{\text{*YESTERDAY}}^{\text{TOP}} \overbrace{\text{SATO}}^{\text{TOP}} \overbrace{\text{CAR QUICKLY}}^{\text{RS}} \overbrace{\text{WASH PERFECTIVE}}^{\text{QUICKLY}} \text{PT}_{\text{SATO}}$
 ‘昨日、佐藤は車を速く洗い終わった’
- b. $\overbrace{\text{YESTERDAY}}^{\text{TOP}} \overbrace{\text{SATO}}^{\text{TOP}} \overbrace{\text{CAR QUICKLY}}^{\text{Q-RS}} \overbrace{\text{WASH PERFECTIVE}}^{\text{QUICKLY}} \text{PT}_{\text{SATO}}$
 ‘昨日、佐藤は車を速く洗い終わった’

(26) 本研究では、3 節で指摘する VP 様態副詞 NM 形態素の波及に関する事実の違いから、これら 3 種類の RS を、行動 RS と非行動 RS の 2 つに区別することにする (非行動 RS → 引用 RS および第 3 の RS)。

³ 第 3 の RS は、引用 RS 中の目的語が何らかの移動を受けて引用 RS の範囲の外に出ているもの、すなわち引用 RS の一種である可能性もある。本研究では、引用 RS 領域を TP (少なくとも vP 以上) と想定すれば、JSL には TP に付加することで可能になるような語順の変化 (例えば scrambling による主語・目的語の語順変化) が存在しないことから、そのような移動で第 3 の RS が派生するとは考えない (話題化による語順変化の場合は、話題化標識を伴うはずである)。

3. VP 様態副詞 NM 形態素の波及に対する線状的隣接性条件の適用環境

(27) 行動 RS を伴う動詞への VP 様態副詞 NM 形態素の波及可能性 (1) :

- a. [目的語 - (様態副詞(手指形態素 + NM 形態素)) - CL 動詞] → NM 形態素が動詞に義務的に波及⁴(=4)。

() C-RS
 _____ TOP _____ TOP _____ * () CAREFULLY/QUICKLY
 YESTERDAY SATO CAR CAREFULLY/QUICKLY WASH PT_{SATO}

‘昨日、佐藤は車を丁寧に/速く洗った’

- b. [様態副詞(手指形態素 + NM 形態素) - 目的語 - CL 動詞] → NM 形態素は目的語を超えて動詞に波及できない(=5b)。 = 修正線状的隣接性条件

_____ C-RS
 _____ CAREFULLY
 *SATO TOP CAREFULLY/QUICKLY CAR WASH PT_{SATO} ‘佐藤は丁寧に/速く車を洗った’

(28) 非行動 RS を伴う動詞への VP 様態副詞 NM 形態素の波及可能性 (2) :

- a. [様態副詞(手指形態素 + NM 形態素) - 目的語 - CL 動詞(+後続要素)] → NM 形態素は目的語を超えて動詞(および後続要素)に義務的に波及。

_____ Q-RS
 _____ CAREFULLY/QUICKLY
 YESTERDAY SATO TOP TOP CAREFULLY/QUICKLY CAR WASH PERFECTIVE PT_{SATO}

‘昨日、佐藤は車を丁寧に/速く洗い終わった’

- b. [目的語 - (様態副詞(=手指形態素 + NM 形態素)) - CL 動詞(+後続要素)] → NM 形態素は動詞(および後続要素)に義務的に波及。

_____ Q-RS
 _____ CAREFULLY/QUICKLY
 YESTERDAY SATO TOP TOP () CAREFULLY/QUICKLY WASH PERFECTIVE PT_{SATO}

‘昨日、佐藤が(車を)丁寧に/速く洗い終わった’

(29) (27a)(28ab)から、行動 RS・非行動 RS 領域では、VP 様態副詞 NM 形態素が右の要素である CL 動詞に義務的に波及することが分かる。

(30) (27ab)の対比および(27b)対(28a)の対比は、行動 RS 領域では、隣接性に関して非行動 RS 領域よりも厳しく、線状的隣接性が適用されることを示している。

(31) 行動 RS を伴う動詞への VP 様態副詞 NM 形態素の波及可能性 (2) :

- [目的語 - (様態副詞(手指形態素 + NM 形態素)) - CL 動詞] → NM 形態素は左の目的語に波及可。

() C-RS
 _____ TOP _____ TOP _____ * () CAREFULLY
 YESTERDAY SATO CAR CAREFULLY WASH PT_{SATO} ‘昨日、佐藤が車を(丁寧に)洗った’

⁴ 動詞が非 CL 動詞の場合、NM 形態素の波及は任意のようである(i)。JSL における CL 動詞と非 CL 動詞の句構造の違いについては上田・内堀(2021)で分析を試みたが、波及の義務性に関するこの対比との関係を含めて、さらなる検討が必要である。

() C-RS
 _____ CAREFULLY
 (i) SATO YESTERDAY LUNCH CAREFULLY MAKE PT_{SATO} ‘佐藤は、昨日弁当を丁寧に作った’

(32) (28b)(31)は、VP 様態副詞 NM 形態素の左の要素への波及は任意であり、その際、行動 RS 領域と非行動 RS 領域では隣接性に関する条件に差はなく、どちらの領域に含まれる要素にも波及可能であることを示している。

(33) 頻度の副詞 (例 $\overline{\text{ALWAYS}}$ (NM 形態素⁵=口をつぐむ・頭が前に出る)‘いつも’) は、VP 様態副詞の左に現われ、構造上その上に位置すると考えられる(34a-d)。

(34) a. $\overline{\text{TOP}}$ $\overline{\text{ALWAYS}}$ $\overline{\text{CAREFULLY}}$ $\overline{\text{CAREFULLY}}$ $\overline{\text{WASH}}$ $\overline{\text{PT}_{\text{SATO}}}$ ‘佐藤はいつも車を丁寧に洗う’

b. $\overline{\text{TOP}}$ $\overline{\text{CAREFULLY}}$ $\overline{\text{ALWAYS}}$ $\overline{\text{CAREFULLY}}$ $\overline{\text{WASH}}$ $\overline{\text{PT}_{\text{SATO}}}$

c. * $\overline{\text{SATO}}$ $\overline{\text{CAREFULLY}}$ $\overline{\text{ALWAYS}}$ $\overline{\text{CAREFULLY}}$ $\overline{\text{WASH}}$ $\overline{\text{PT}_{\text{SATO}}}$

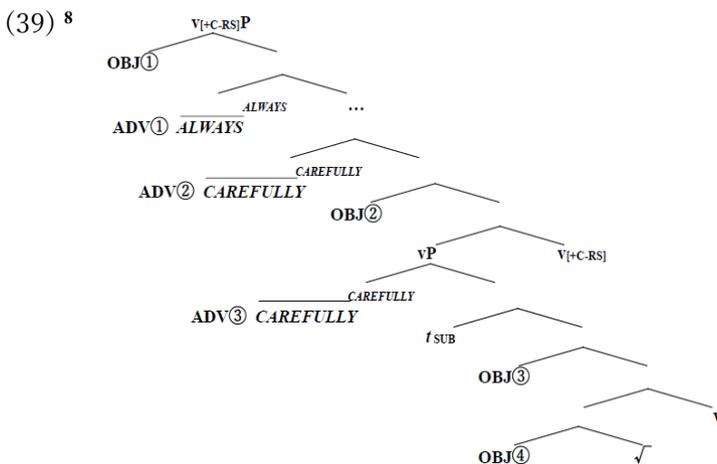
d. * $\overline{\text{SATO}}$ $\overline{\text{CAREFULLY}}$ $\overline{\text{CAR}}$ $\overline{\text{ALWAYS}}$ $\overline{\text{WASH}}$ $\overline{\text{PT}_{\text{SATO}}}$ ⁶

(35) 目的語は、頻度の副詞 (例 $\overline{\text{ALWAYS}}$ ‘いつも’) の左に現われることもでき、VP 様態副詞 NM 形態素はその目的語から動詞まで波及できる(36)。

(36) $\overline{\text{TOP}}$ $\overline{\text{CAREFULLY}}$ $\overline{\text{CAREFULLY}}$ $\overline{\text{WASH}}$ $\overline{\text{PT}_{\text{SATO}}}$ ‘佐藤はいつも車を丁寧に洗う’

(37) 行動 RS 領域内の統語操作(38)およびその構造(39) (副詞は修飾する領域に応じて自由に付加) を仮定すると、頻度の副詞、VP 様態副詞、目的語、動詞による語順のパターンと波及可能性との関係を説明できる。

(38) 行動 RS 領域は、(39)が示すように、行動 RS を導く素性 [+C-RS] を持つ機能範疇である $v[+C-RS]$ が形成する構造と見なすことにする。目的語は \sqrt{P} (VP) 補部 (OBJ④) から v edge (OBJ③) を経て $v[+C-RS]$ edge (OBJ②, もし先に副詞が付加していれば OBJ①) に移動することで、 $v[+C-RS]$ との必要な統語的關係 (例えば、人称のシフトをもたらす素性共有など) を結ぶと仮定する。このように構造上、目的語が vP から外に出なければならないことは、前のセクションで述べた行動 RS 領域に関する性質(19, 20, 21b)と整合する。



(40) 行動 RS の NM 形態素標示 ($\overline{\text{C-RS}}$) :

[$\sqrt{\text{V}}$ -v -v[+C-RS]] が、一語の動詞として外在化される際、同時に表出されると仮定する。

(41) VP 様態副詞 NM 形態素の波及 :

外在化の際、VP 様態副詞が現われる $v/v[+C-RS]$ の領域全体で生じるが、動詞との間に線状的隣接性条件が適用される。

⁵ 頻度の副詞の NM 形態素は波及しない。

⁶ (34cd) の非文性には、VP 様態副詞 NM 形態素の動詞への波及が、線状的隣接性条件(27b)により妨げられることも関与していると考えられる。

⁷ (36) の VP 様態副詞 NM 形態素は、頻度の副詞の NM 形態素に被って目的語まで波及すると報告されている。

⁸ 本研究では、この構造を CL 動詞のみに仮定し、非 CL 動詞については今後検討することとする。

(42) 行動 RS 領域内の語順と VP 様態副詞 NM 形態素の波及の関係について、ここまでに観察したパターンは以下のよう分析される：

a. (27a): $[_{v[+C-RS]P} \text{OBJ②} \overline{\text{VP ADV③} \dots V} \text{NM}]$ (38)の仮定により、目的語は常に OBJ③から OBJ②へ移動。波及は、vP に付加した様態副詞(ADV③)を含む vP 領域に生じている(41)。

b. (27b): $*[_{v[+C-RS]P} \overline{\text{ADV② OBJ②} \text{NM}} [_{vP} \dots V]$ 目的語の左に VP 様態副詞がある(OBJ②の左に ADV②)。波及は ADV②を含む v[+C-RS]P 領域に生じるが(41)、この場合、ADV②と動詞が介在する OBJ②により線状的隣接性(41)を満たさないため、波及不可。

c. (31): $[_{v[+C-RS]P} \text{OBJ①} \overline{\text{ADV②} \text{NM}} [_{vP} \dots V]$ 語順としては(27a)と同じだが波及の範囲が異なるのは、(27a)と構造が異なるためと考えられる。目的語は、VP 様態副詞 ADV②より左に位置している(OBJ①)。波及は ADV②を含む v[+C-RS]P 領域に生じ(41)、その結果 OBJ①にも波及することとなる。

d. (34a): $[_{v[+C-RS]P} \overline{\text{ADV① OBJ②} \text{NM}} [_{vP} \overline{\text{ADV③} \dots V}]$ 目的語(OBJ②)の左に、頻度の副詞が位置する(ADV①)。波及は、VP 様態副詞 ADV③が現われる vP 領域に生じている(41)。

e. (34b): $[_{v[+C-RS]P} \text{OBJ①} \overline{\text{ADV①} \text{NM}} [_{vP} \overline{\text{ADV③} \dots V}]$ 頻度の副詞の左に目的語が位置する(ADV①の左に OBJ①)。VP 様態副詞は ADV③にあり、vP 領域に波及(41)が生じている。もし、VP 様態副詞が頻度の副詞 ADV①の右すなわち ADV②の位置にあると仮定しても同じ語順になるが、その場合は(41)により波及は vP 領域に生じず、この(34b)の波及のパターンにはならない。

f. (36): $[_{v[+C-RS]P} \text{OBJ①} \overline{\text{ADV①} \text{NM}} \overline{\text{ADV②} \text{NM}} [_{vP} \dots V]$ 頻度の副詞(ADV①)の左に目的語が位置する(34b)と同じ語順で(OBJ①)、VP 様態副詞が ADV②にあるとき、v[+C-RS]P 領域に波及(41)が生じている。もし、ADV①の右の VP 様態副詞が ADV③の位置にあれば、波及は vP 領域に生じるため、(34b)の構造および波及のパターンとなる。

(43) $\overline{\text{TOP}} \overline{\text{ALWAYS}} \overline{\text{C-RS CAREFULLY}} \text{CAR CAREFULLY WASH PT}_{\text{SATO}}$ ‘佐藤はいつも車を丁寧に洗う’

(44) (43): $*[_{v[+C-RS]P} \overline{\text{ADV①} \text{NM}} \overline{\text{OBJ②} \text{NM}} [_{vP} \overline{\text{ADV③} \dots V}]$ 目的語(OBJ②)の左に、頻度の副詞が位置する(ADV①)。波及が目的語に及ぶとすれば、波及は v[+C-RS]P 領域(41)に生じていることになるが、その場合、ADV①にも波及するはずなので、この(43)の波及のパターンにはならない⁹。波及が、VP 様態副詞 ADV③が現われている vP 領域に生じれば、(34a)のパターンとなる。

(45) 非行動 RS では、行動 RS で見られた線状的隣接性条件(27b)は適用されない。引用 RS の場合は(28a)、2 節で指摘した第 3 の RS (23) については以下(46)がその例となる。

(46) $\overline{\text{TOP}} \overline{\text{TOP}} \overline{\text{CAREFULLY}} \overline{\text{3rd-RS CAREFULLY}} \text{YESTERDAY SATO CAREFULLY CAR WASH PERFECTIVE PT}_{\text{SATO}}$
‘昨日、佐藤は車を丁寧に洗い終わった’

(47) 行動 RS と、第 3 の RS を含む非行動 RS で、VP 様態副詞の NM 形態素による波及の線状的隣接性条件の適用が分かれる(45)という事実は、非行動 RS 領域内の波及は、(41)で行動 RS とともに生じる波及について仮定したこ

⁹ 頻度の副詞 ADV①に固有の NM 形態素があるために、ここで検討している波及が起きないのではない。注 7 を参照。

とは異なるメカニズムによって生まれるものであることを示唆する。ここでは仮に、非行動 RS を引き起こす主要部が $v[+C-RS]$ より上にも存在し、波及はその主要部の領域内 ($v[+C-RS]P$ 領域より広い領域内) で一括して生じる、と考えておくが、さらなる検討が必要である。

4. おわりに

- (48) U&U は、VP 様態副詞非手指形態素の動詞への波及には線状的隣接性条件と構造的階層性条件が関わりと提案したが、本研究では前者の条件を行動 RS 領域において確認した(27b)。一方、非行動 RS 領域ではその条件が無効である可能性を見た(28a)(46)。
- (49) RS 領域内での VP 様態副詞 NM 形態素の波及のパターンについて、本研究に基づき、さらに観察・検討を進めることによって、異なるタイプの RS 領域の構造の手掛かりが得られると期待される。

引用文献

- Sandler, Wendy and Diane Lillo-Martin (2006) *Sign language and linguistic universals*. Cambridge, UK: Cambridge University Press.
- 市田康弘 (2005a) 「手話の言語学 第7回話し手の身体と視線—日本手話の文法(3)「動詞の一致(再考)と指示対象のシフト」」『月刊言語』34-7: 92-99. 東京: 大修館書店.
- 市田康弘 (2005b) 「手話の言語学 第8回頭の位置と口型—日本手話の文法(4)「知覚動詞・思考動詞, 非手指副詞」」, 『月刊言語』34-8: 92-99. 東京: 大修館書店.
- 川崎典子 (2021) 「視線が作る時空間に産み出される事象—ロールシフトのシンタックスと意味」慶應言語学コロキウム口頭発表. 慶應義塾大学, 2021年3月21日.
- 木村晴美 (2011) 『日本手話と日本語対応手話(手指日本語)—間にある深い谷』東京: 生活書院.
- 松岡和美 (2015) 『日本手話で学ぶ手話言語学の基礎』東京: くろしお出版.
- 岡典栄・赤堀仁美 (2011) 『<文法が基礎からわかる>日本手話のしくみ』東京: 大修館書店.
- 小藪江聡・木村晴美・芳仲愛子・市田泰弘 (2000) 「日本手話におけるロールシフト」『日本手話学会第26回大会予稿集』8-11. 日本手話学会.
- 上田由紀子・内堀朝子 (2019) 「日本手話における非手指副詞, 動詞, 目的語の語順について」『日本言語学会第158回大会予稿集』342-348. 日本言語学会.
- 上田由紀子・内堀朝子 (2021a) 「日本手話のいわゆる動詞句削除現象: 非手指表現に注目して」『言語科学研究』27: 23-45. 神田外語大学大学院.
- 上田由紀子・内堀朝子 (2021b) 「日本手話におけるいわゆる動詞句削除現象—SASSによるCL動詞に注目して」『日本言語学会第162回大会予稿集』186-192. 日本言語学会.
- 内堀朝子 (2018) 「ラベルに寄与する素性について—手話言語研究から」慶應言語学コロキウム口頭発表. 慶應義塾大学, 2018年3月18日.